

近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声
一本の小枝で結ぶ地域の世代
一本の小枝が渡す地域と区政

No.26 2015年8月発行

皆様の温かいご支援により、区議会議員として4期目をスタートすることができました。

今回の中野区議会議員選挙では、共産党・民主党の立候補者は全員当選し、新人議員が11人と平均年齢も若返りました。議会構成は、自民党13人(-1)・公明党9人(±0)・共産党7人(+2)・民主党5人(+1)・無所属8人〔()内改選前との比較〕、議会の過半数を自民党と公明党が占める

体制は選挙前と変わらず、今回の議会(平成27年第2回定例会)で民主党が提出した「安全保障法制の慎重審議を求める意見書」は、7月7日賛成少数で否決されました。(自民・公明の反対多数)



今期私は「建設委員会」と「少子高齢化対策調査委員会」に所属しました。議会の中ではたったひとりの小さな存在ですが、これからも生活者の目線で、皆様の声を区政に届けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



いま中野区は!

建設委員会より「次の世代にどのような中野区を残すのか」

西武新宿線沿線のまちづくり (沼袋・新井薬師前地区)

西武新宿線の連続立体交差事業を契機に、平成24年度沼袋駅周辺地区・平成25年度新井薬師前駅周辺地区、各まちづくり検討会が設立され、住民による議論を重ね、平成27年3月「まちづくり構想」がまとまり区長に提出されました。秋には両地区の「西武新宿線沿線まちづくり整備方針」が策定される予定です。

大和町地区まちづくり

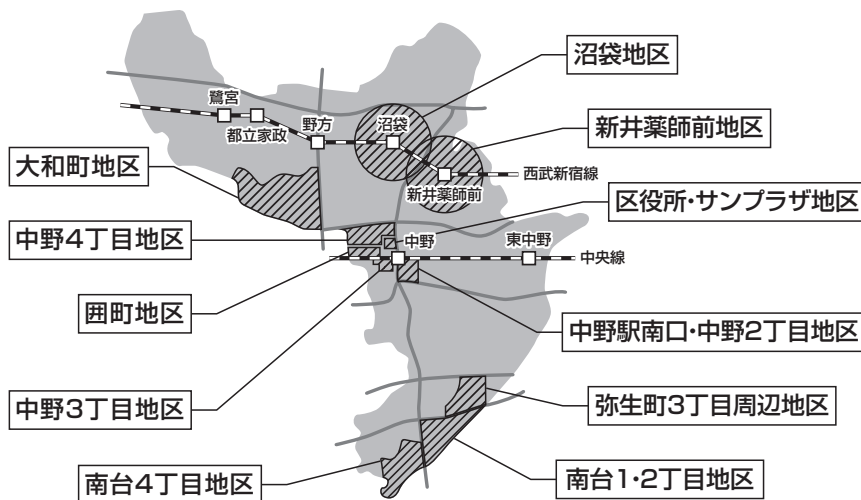
大和町地区では、東京都の「木密地域不燃化10年プロジェクト」に基づく特定整備路線となる大和町中央通りの拡幅事業を契機に、災害に強い町づくりが進められています。地区住民による「大和町まちづくりの会」で議論を重ね、今年5月「大和町まちづくり方針」、6月「大和町まちづくり構想案」ができました。

今後のまちづくり

囲町地区まちづくり、区役所・サンプラザ地区再整備、中野駅地区2期整備先行工事、中野駅南口地区まちづくり、中野3丁目・4丁目地区まちづくり、弥生町3丁目周辺地区整備、南台1丁目・2丁目地区、南台4丁目地区等、各地で次々と大規模な事業が始まります。

「極力、区財政を持ち出さないように国や都の交付金や補助金で公共事業を賄う予定」と言いますが、震災やオリンピックの影響による労務単価上昇等により、現在進行中の耐震整備等工事でもすでに想定予算を上回っています。

平成32年頃に集中する公共工事への財源の確保に心配はないのか、次の世代にどのような中野区を残すのか、今後、活発な議論が必要です。



中野体育館を巡る動向

2020年オリンピック・パラリンピックのメイン会場として建設予定の新国立競技場は、デザインと建設費を巡り二転三転、結局7月17日のデザイン案見直しから白紙撤回となり、国民は不信感を抱いています。

一方、中野体育館は「建設地」を巡り右往左往してきました。小枝通信 No.25 でもお伝えしましたが、今年2月、経営本部会議において、それまで中野駅周辺に建設予定であった体育館の建設地を平和の森公園に変更する決定がされました。平和の森公園を総合スポーツ施設にして、そこに体育館を建設するというものです。

多くの区民が関心を寄せる新体育館の建設。突然の変更にて区民は驚き、区民不在の計画変更にて異議を唱えています。今議会中「平和の森公園を現状のまま残したい」と願う区民が連日関連する委員会を

傍聴しましたが、「平和の森公園に新体育館を建設することについての賛否」の議論は深まらず、区民は苛立ちを募らせています。

区が考えてきた新体育館の予定地

- ◆平成18年1月「新しい中野をつくる10か年計画」策定 **第九中学校跡地**
- ◆平成22年3月「新しい中野をつくる10か年計画(第2次)」策定 **第九中学校跡地**
- ◆平成24年6月「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン ver.3」策定
防災機能や新たな施設機能のあり方を勘案し、最適な配置を検討。**中野駅周辺**
- ◆平成25年3月「新・中野体育館整備方針(たたき台)」策定
中野四季の都市(まち)区域3区有地を候補として検討。
- ◆平成27年3月「新しい区役所及び中野体育館の整備に関する基本的な方針」報告
新しい中野体育館は、**平和の森公園内**にて整備するとして検討を進める。

1. 家庭ごみの有料化について

私は、かつて2度にわたり江東区のごみ減量の取り組みを紹介、中野区の施策について尋ねてきたが、区民が生ごみ減量を意識し環境問題に取り組むための喚起もなかった。その中で、『新しい中野をつくる10か年計画(第2次)において、平成31年度までに平成16年度比でごみ量を半減させるという目標が達せない』理由から、家庭ごみの有料化に向けて考えている」との区民委員会の報告があった。

自宅にごみ集積所がある区民は「玄関前の集積所には曜日時間も関係なくゴミが捨てられ、掃除をしてもきりなくノイローゼになりそうです。有料化するなら、集積所の掃除も区でお願いしたい」と嘆いている。

区は、不適切なゴミ排出を防ぐため監視カメラの設置を行っていると言うが、26,000か所の集積所に対し6台のカメラでは意味をなさない。有料化すれば、さらに状況の悪化が想定され、さらに、区民が他区にゴミを捨て近隣自治体に迷惑をかける恐れもある。

区民のごみ減量意識を育てる努力もせず、不適正なごみの排出問題の解決策も示せず、「目標に達せないから」と、ごみ対策を金銭負担として区民に丸なげする「ごみ有料化」はあまりにも怠慢であり、とても区民の理解は得られない。家庭ごみの有料化は思いとどまるべきだと考える。

◆環境部長答弁

PRや様々な講座・イベントを活用、生ごみの水切り啓発や資源分別回収の効果により、燃えるごみは減少傾向にある。不適正排出については、監視カメラ設置、優良集積所認定制度、小規模集合住宅の集積所設置指導等取り組んでいる。

家庭ごみ費用負担制度(有料化)は、ごみ減量の最も効果的な取り組みであり、負担の公平性をはかることにも繋がると考えている。



2. 犯罪被害者等相談支援窓口の役割について

国は犯罪被害者施策を進め、犯罪被害者や遺族等の支援に当たる総合窓口は、すべての政令指定都市および市区町村の約90%の自治体に設けられているが、被害者ケアは進んでいるとは言えず、日経新聞は5月26日「犯罪被害者進めめケア 相談窓口、当事者意識薄く」として「自治体の相談窓口は設置していてもほとんど機能しないところも多く、9割が実際に支援を受けられない」との記事を載せた。その記事の中で支援窓口の成功代表例として、中野区の窓口の取り組みの成果が大きく採り上げられ、自治体の犯罪被害者等窓口のお手本のような扱いとなっていた。

中野区の取り組みが高く評価され、他の自治体の参考にされ、内閣府や他の市町村から講演依頼等も多いが、積極的対応をお願いしたい。

また、近年で最も多いのは、高齢者を狙った「振り込め詐欺」等の特殊詐欺で、中野区でも先月だけで5人以上が100万円以上の被害に遭った。これらの相談は何処の部署が受けているのか。詐欺被害にあった高齢被害者支援も、犯罪被害者等相談支援窓口が中心となってはどうか。

「最近になって、被害者支援、被害者教育こそが、確実な防犯対策であると言う認識が広まって来ている」(常磐大学被害者学 諸澤英道教授)。一見遠回りのように見えるが、被害者支援は、確実に防犯につながる事が明らかになりつつある。中野区民が安全で安心して暮らすために、犯罪被害者等相談支援窓口のさらなる活躍、活用を願う。

◆区長答弁

本区の犯罪被害者等相談支援窓口の取り組みは、先進自治体として他の自治体から一定評価を受けており、今後も他自治体への協力を積極的に行いたい。

特殊詐欺や悪質商法に関する相談への対応に関しては、警察や中野区消費者センター等で対応しているが、実際の被害者への対応は犯罪被害者等相談支援窓口でも1件実績がある。今後とも気軽に相談できる関係づくりに努めていく。



<http://saekonikki.exblog.jp/>



日々の活動をお知らせしています。

★6月9日 更正保護における犯罪被害者等の為の制度

「意見等聴取制度」(加害者の仮釈放の審議時に被害者が意見を言うことができる制度)、「心情等伝達制度」(仮釈放中の加害者に向けて意見を述べるができる制度)、近年、国が犯罪被害者のために作った制度です。

私もこれらの制度を利用してきましたが、刑務所は全国各地にあり、6人の加害者がそれぞれ別の刑務所に収監されているため、遠方の刑務所近くの地方更生保護委員会へ自費で出向いては意見を言いに行きました。

各地方更生保護委員会の職員から、この制度の利用率が低いと伺い、「経済的に苦しい被害者が遠方まで旅費を負担してこの制度を使えるとは思えない」と委員会や講演会の都度申し上げてきました。

今日、保護観察所の方から、今年度から被害者に旅費が認められることになったことを聞かされ、「やった!」大変うれしい驚きでした。たった1人でも、各所で被害者遺族の立場を訴え続けてきて良かったと思いました。

★6月18日 中野区シルバー人材センター定時総会

中野区シルバー人材センターの定時総会に出席しました。

都内には58のシルバー人材センターがあります。各センターは高齢者の就業機会確保の取り組みを進め、受託件数や契約金額は増加していますが、会員は平成22年度をピークに、ここ数年減少が続いています。高齢者が地域で働くことは、本人の健康や生きがいのため、また地域のため、大変良いことだと思いますが、会員になる方が減少していることは残念です。

我が家も庭の植木剪定等、何十年もシルバー人材センターにお世話になってきました。60歳で定年後、シルバー人材センターで植木屋として働いた方が、「第3の人生は老人ホーム等でボランティアをします」と言って80歳で卒業されました。

「働き続けることで社会参加したい」「身体が続く限り誰かの役に立ちたい」、このような素敵な高齢者がシルバー人材センターには大勢います。



小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(4期) 趣味:テニス

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL & FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com